

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：21014

「学ぶ力」	
成果	課題
◇共通指標アンケート「自分の目標をもって生活している。」「疑問や課題を解決するために、自分の方法で考えている。」という、本校の研究主題に関わる項目は札幌市平均と比べて見ると高い傾向が見られる。 ◇「目的意識を生むための教材化」に重点を置き研究を進めたことで、子どもたちから「問い」を生むことができた。	◇共通指標アンケート「意見の違う人とも、よく話し合おうとしている。」「分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている。」を札幌市平均の結果と比べると低い傾向がみられる。授業の中で他者と関わる場面、子どもにとって必要感のある対話場面の充実がより求められている。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
◇共通指標アンケート「自分が必要とされていると感じる。」の項目は、札幌市全体よりも高い傾向にある。本校では、どんぐり活動（縦割り活動）を教育の柱としており、他学年と関わる場面が多い。より相互承認される場や雰囲気を作っていく必要がある。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

他者と関わりながら、主体的に学び続ける力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	(1)研究主題「自ら課題を見付け、学びの主人公になる子どもの育成」の実現 →子どもたちが主体的に学び続けるための授業構築・授業改善 →子どもたちから生まれる「問い」の醸成 →子どもが「学びのコントローラー」をもち続けるための教師の関わり（AAR サイクルの中で）	①どんぐり活動（縦割り活動） ・6年生を中心とした縦割り活動の企画・運営 ・様々な行事を通して、4・5年生の行事の企画・運営 ②3年生による低学年リーダー活動 ③委員会活動による様々な活動 ④学級活動部によるあいさつの振り返り
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
◇主に（1）について、複数のツールから適当なものを児童が自ら選択できるようにするために、各学年で目指す「ICT 活用スキル」の共有と指導を学年間で系統立てて行う。 ◇主に③について、Google form で意見を集約し、ワードクラウド等で可視化するなど、一人ひとりの意見や考えが反映するシステムを活用したり、パートナー校との連携のために、meet 会議の機会を作り、子ども同士の声をつなげられるようにする。		

<本プログラムの実行に向けて>

